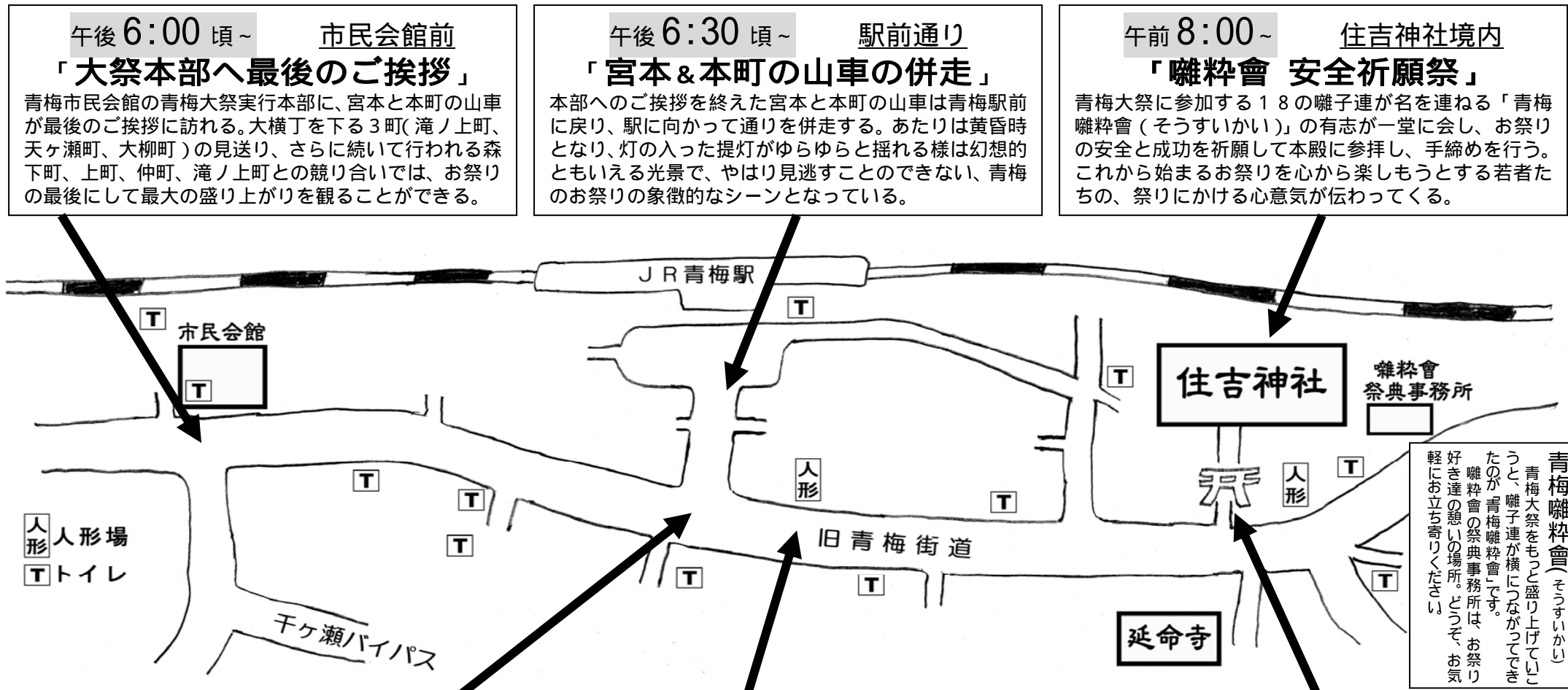


青梅大祭 5月3日 見どころマップ



午後 5:15 頃～ 駅前交差点
「青梅駅前 四町競演」
 宮本、本町、西分町、勝沼町の4台の山車によって行われる「駅前四町競演」は、青梅大祭の最大の見どころ。ここでは、その場に在るすべての人が一体となり、その興奮は最高潮に達する。まさにお祭りの“動のクライマックス”。絶対に見逃せない圧巻のシーンだ。

午前 10:00～/午後 2:00～ 市街各所
「12町の山車の競り合い」
 東六町(勝沼町、西分町、宮本、本町、仲町、上町)の山車と西六町(日向和田、裏宿町、森下町、天ヶ瀬町、滝ノ上町、大柳町)の山車とが、旧青梅街道のあちこちで相次いで競り合いを行う。威勢のいいお囃子を十分に堪能できる、心がワクワクする時間帯だ。

午後 7:30～ 住吉神社参道
「神事 昇魂の儀(宮入り)」
 前日の夜に行われた「入魂の儀(宮出し)」において、山車へと遷された御霊(みたま)は、この「昇魂の儀(宮入り)」で神社へとお還りになられる。かがり火の中で厳かに執り行われるこの神事は、お祭りの最後を飾る“静のクライマックス”といえよう。

(表示は目安時間です。状況により時間にズレが生じる場合もありますので、ご了承ください)



本町の山車人形
(武内宿禰、応神天皇、神功皇后)

もう一つの見どころ 人形場の「山車人形」(上のマップの 人形 マークのところで観られます)

青梅宿の旧五町「住江町(宮本)/本町/仲町/上町/森下町」にはそれぞれに「人形場(にんぎょうば)」が設けられており、市の文化財である「山車人形(だしにんぎょう)」が飾られています。これらは、明治44年に電線が架設される前には、三重高欄の作りであった鉾山車の最上層に飾られていたものです。住江町に残されている山車人形は、子を孕みながらも戦に赴かんとする『神功皇后(じんぐうこうごう)』の出陣姿で、江戸の名人人形師の一人である仲秀英(なかしゅうえい)の作。そして、本町に残されている山車人形は、戦装束に身を包む『神功皇后』に、まだ幼子の『応神天皇(おうじんてんのう)』を抱く『武内宿禰(たけのうちのみくね)』が付き従う姿で、同じく江戸の名人人形師の原舟月(はらしゅうげつ)の作。いずれも明治初期に作られた傑作で、他所で見られる人形とは別格といつていいほどの出来映えです。



住江町の山車人形(神功皇后)

青梅の祭りのことをもっと知りたければ.....
 『青梅住吉祭礼』(500円)と『青梅の祭礼で大切にされてきた形式美』(1000円)の2冊の本と各種ビデオ&DVDをゲットしよう! これらのご購入に関するお問い合わせは、「マイナー堂」、「オリオンカメラ」まで!(裏面参照)

墨江町囃子連ホームページ <http://www.ome-miyamoto.com/>
 お問い合わせメールアドレス webmaster@ome-miyamoto.com



歴史・由来

住吉神社

青梅には、六百年以上もの歴史をもつ「延命寺(えんめいじ)」という古刹があります。その寺の僧であった季竜(きりゅう)禪師は、自らの郷里であった摂州に鎮座する「住吉社(現・住吉大社)」を鎮守として勧請し、この地の山に「住吉」の号を付しました。それが、青梅の「住吉神社」のルーツとなっています。時代は下り、住吉神社の社殿が建立されたのは一五三三年三月二十八日のこと。この日が、地域の総鎮守となつた住吉神社の祭礼の日となりました。大陽暦に変わった明治六年以降、住吉神社の祭礼日は四月二十八日に移されますが、現在でもこの日には、各町の代表らが参列して、例大祭が行われています。また、墨江町囃子連ではその前夜(二十七日夜)、宵宮として「奉納囃子」をしめやかに執り行っています。住吉神社の祭礼に山車が曳行されるようになったのは明治期以降のことといわれていますが、昭和四十年代からは、華やかな山車の曳行だけがゴールデンウィークの五月二日、三日に催されるようになり、現在の「青梅大祭」の形態となりました。江戸の情緒をいまに残す青梅の祭礼は、関東でも有数の規模を誇る山車祭りとなっています。



延命寺

青梅駅時刻表 (3日)	奥多摩方面		立川・東京方面	
	時	分	時	分
	44	30	05	08
	16		19	32
	45	16	43	52
	17		26	32
	53	38	30	46
	09	18	57	
	27	19	34	52
	46	13	20	59
	20		34	50
	16	21	47	58
	09	23	36	47
	41	05	22	49
	22		31	49

下線付き：快速東京行 / 枠囲み：ホリデー快速新宿行き

制作・発行：墨江町囃子連 & 本町囃子連